

よくあるご質問と回答 Arcserve Backup r17

製品仕様

Q. Linux ベースの NAS にバックアップできますか？

はい、可能です。Arcserve Backup では NAS にファイル システム デバイス (FSD) を作成し、バックアップ先に指定できます。

ご利用の NAS で以下 2 点をご確認ください。

1. CIFS 共有が可能であること
2. ご指定アカウントによるフル コントロールでのアクセスが可能であること

Q. Arcserve Backup ではバックアップ装置はいくつまでサポートしていますか？

255 個までサポートしています。

最大値の 255 は Arcserve Backup で利用できるバックアップ装置 (テープ装置、ファイル システム デバイス、データ デデュープリケーション デバイス、クラウド デバイス) の合計数になります。

Q. Arcserve Backup は GPT 形式のディスクをサポートしていますか？

はい、サポートします。Arcserve Backup では 64 TB までの GPT 形式のディスクをサポートします。

Q. ファイル システム デバイスを GPT 形式のディスクに作成できますか？

はい、作成できます。64 TB までサポートします。

Q. Arcserve Backup はクラスタ (WSFC/MSCS) 環境のバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

Arcserve Backup では、アクティブ/パッシブやアクティブ/アクティブのクラスタ環境をバックアップできます。クラスタの構成ノード数に制約はありません。Windows OS がサポートしている範囲内のノード数をサポートします。

Q. Arcserve Backup はクラスタ システムとして動作しますか？

はい、バックアップ サーバにて、アクティブ/パッシブのクラスタ システムとして動作します。バックアップやリストア中にバックアップ サーバでフェールオーバーが発生した場合、サービス起動後に中断した処理を継続します。

※Arcserve Backup のアクティブとなるノードは 1 台です。他のノードはすべてパッシブになります。(アクティブ/アクティブのクラスタ システムとしては動作しません)

Q. Windows Server 2012 の NTFS 重複除去ボリュームや ReFS はバックアップ先に利用できますか？

はい、利用できます。ReFS に関しては、ファイル システム デバイス (FSD) のみサポートします。
Arcserve Backup の重複排除デバイス (DDD) としての利用はできません。

Q. Windows Server 2012 の NTFS 重複除去ボリュームをバックアップすると、バックアップ データのサイズはどうなりますか？

Windows Server 2012 の重複除去ドライブをドライブ全体として選択されている場合、Arcserve Backup では最適化された状態 (重複除去でサイズが小さくなった状態) でバックアップします。

ライセンス

Q. Arcserve データベースをオンラインでバックアップする場合、Agent for Microsoft SQL が必要ですか？

いいえ、不要です。

Arcserve データベースで利用しているデータに関しては、Arcserve Backup の標準機能でバックアップできます。
デフォルト Arcserve データベースを利用している場合でも、有償版の SQL Server を Arcserve データベースとして使用している場合でも同じです。また、リモート マシン上の 有償版 SQL Server を利用して Arcserve データベースを構築した場合でも同じです。

Q. SAN の共有ディスクに ファイル システム デバイス (FSD) を作成する場合、SAN Option は必要ですか？

いいえ、不要です。

SAN Option は、SAN 上のテープ装置を複数のバックアップ サーバ間で共有する場合に必要になります。

ベース製品（導入）

Q. Arcserve Backup の過去バージョンを利用していますが、バージョンアップを検討しています。利用中のバージョンと比べて、最新のバージョンではどのような機能がありますか？

Arcserve Backup では重複排除によるバックアップ データの削減、Windows Server 2012 対応、クラウドへのデータ保管、仮想化対応強化など、バージョンを重ねるごとに様々な機能を追加しています。

ご利用中のバージョンとの違いは、[カタログ センター](#)のバージョン別機能一覧を参照してください。

Q. バックアップ サーバをアップグレードすると、Agent のバックアップ情報やジョブは引き継ぐことができますか？

Arcserve Backup を上書きでアップグレードすることで引き継ぐことができます。インストール中の選択項目にご注意ください。下位互換サポートの制限事項についての詳細は[技術情報（インフォメーション）](#)をご参照ください。

Q. 仮想環境のゲスト OS に Arcserve Backup のベース製品を導入できますか？

はい、Arcserve Backup r16 より導入できます。VMware や Hyper-V、Xen、KVMなどをサポートしています。詳細は[動作要件](#)をご確認ください。

Q. Arcserve データベースのデフォルト DB である SQL Express 2014 の Service Pack は？

Service Pack 1 になります。

デフォルト Arcserve データベースを選択された場合、SQL Server 2014 Express Edition x86 (SP1) を導入します。

Q. インストール時に導入される “Arcserve Backup Web サービスのインストール” とは何ですか？

Arcserve Backup Web サービスは、Arcserve シリーズ製品である Arcserve UDP (Unified Data Protection) と連携するためのサービスです。Arcserve UDP はイメージ バックアップ製品で、ハードディスクにバックアップを行います。Arcserve Backup の機能を使って、バックアップしたデータをテープ媒体に保管できます。Arcserve Backup Web サービスを利用することで、テープへの保管設定を Arcserve UDP のコンソール画面から設定できます。

※ Arcserve Backup Web サービスは、Arcserve UDP v6 の拡張機能「テープへのコピー」を使うための機能です。

Q. インストール時に外した Arcserve Backup Web サービスを後から追加できますか？

はい、コマンドで追加できます。

Arcserve Backup のインストール フォルダで `bconfig -c` を実行してください。

※コマンド実行前に Arcserve Backup 関係の画面をすべて閉じてください。

ベース製品（バックアップ設定）

Q. 長期間アクセスしていないファイルをバックアップの対象から外したいのですが、どうすればいいですか？

フィルタ機能を利用することで、バックアップ対象データの絞り込みができます。

フィルタ機能は、バックアップ マネージャ画面の上部にある [フィルタ] ボタンをクリックして設定します。

フィルタは抽出条件に合致したデータのみをバックアップする [組込み] と、条件にマッチしたデータの [除外] を指定できますが、今回の質問のケースでは、[組込み] を利用します。抽出条件となるフィルタ パターンに [過去の指定期間内に更新されたファイル]、[過去の指定期間内に作成されたファイル]、[過去の指定期間内にアクセスされたファイル] をそれぞれ選択し、バックアップ対象に含めるべき期間を指定します。

尚、Arcserve Backup では、長期間アクセスしていないファイルを業務サーバのディスクから、NAS やテープ装置などにアーカイブ（移動）できます。アーカイブで移動したファイルには、移動前のフォルダに移動先情報のファイルを残すことができ、後日ファイルが必要となった場合に移動先がすぐに判るように設計してあります。

Q. 月末日に実行するスケジュールを組む場合、どのように設定すればいいですか？

カスタム スケジュールの繰り返し方法の設定で [日単位] を利用します。

バックアップの実行時間が夜中の 12 時を回る場合は、[日単位] で "1 日" を選択します。

12 時を回らない場合（たとえば 23 時に実施するなど）は、"31 日" を設定します。31 日に満たない月（2 月/4 月/6 月など）では、月末最終日となる 28 日や 30 日にバックアップを実行します。

Q. ローテーションのバックアップ ジョブはライブラリ装置がないと運用できませんか？

テープ ライブラリ装置がない場合でも、ディスク バックアップのためのファイル システム デバイス(FSD)を複数作成することで可能です。デバイス マネージャにおいて複数の FSD を作成後、[デバイス グループ環境設定]画面でそれらを 1 つのデバイス グループに割りあてます。ローテーションのバックアップ先として、そのグループを選択してください。

※スケジュールの作成例は、[「バックアップ スケジュールの作成と考え方と設定例」](#)を参照してください。

Q. テープ装置の暗号化機能（ハードウェア暗号化）を使う場合の設定方法は？

LTO などのテープ装置でハードウェア暗号化を利用するには、下記の設定を行います。

1. バックアップ マネージャ画面上部にある [オプション] ボタンをクリックします。
2. [暗号化/圧縮] タブを開き、[パスワード] および[パスワードの確認]を入力します。
3. [データの暗号化] にチェックを入れ、[バックアップ中にバックアップ サーバで処理] を選択します。
4. [OK] をクリックして、[グローバル オプション] 画面を閉じ、バックアップを実施します。

ベース製品（2段階バックアップ・ステージング）

Q. ファイル システム デバイス（FSD）でバックアップしたデータを定期的に NAS にコピーできますか？

はい、ステージング機能（2段階バックアップ）で可能です。

1. 一次バックアップ先と NAS 共有フォルダ用に各々 FSD を作成します。
2. デバイス マネージャの[デバイス グループ プロパティの環境設定]から、一次領域用の FSD にステージング設定を行います。
3. デバイス マネージャの[デバイス グループ プロパティの環境設定]から、一次領域用の FSD にステージング設定を行います。
4. バックアップ マネージャの[スタート] タブにて、[標準バックアップ] と [ステージング有効化] を選択します。
5. [ステージングの場所] タブで一次領域用の FSD を、[デスティネーション タブ]で NAS に作成した FSD を指定します。
6. 必要に応じて[ポリシー] タブで、NAS 上の FSD へのコピー間隔と一次領域の FSD からコピー済みデータの削除する間隔を指定できます。
7. ジョブをサブミットします。

Q. ステージング デバイスでファイル システム デバイス（FSD）を指定してもステージング ポリシーでページ設定が表示されないのは何故ですか？

指定された FSD がディスク ステージング デバイスとして設定されていないため、テープ扱いになっているためです。デバイス マネージャ、もしくはバックアップの [ステージング] タブから、[デバイス グループ プロパティの管理] で使用する FSD のに対して [ステージングを有効にする] 設定をしてください。

ベース製品（重複排除機能）

Q. データ デデュプリケーション（重複排除機能）のベンチマークかバックアップの参考資料はありますか？

こちらの資料をご参照ください。 [データ デデュプリケーション効果測定](#)

Q. 重複排除される範囲は？

1 度のバックアップ内、バックアップ世代間（過去のバックアップと今回のバックアップ）、ノード間で重複排除を実施します。

Q. 重複排除はソースにより使用できないものがありますか？

ありません。重複排除はバックアップ ソースの内容にかかわらず使用できます。

物理/仮想、ローカル/リモート、Windows / Linux / UNIX、raw データなど、ソースに関わらずチャンク（バックアップデータを小さくブロック分割した塊）に分解し、同様に処理をします。

※効果はソース内で重複しているデータ量に応じて異なります。

Q. デデューPLICATION機能実行時は、差分/増分のバックアップは不要になりますか？

ローカル バックアップの場合、差分/増分の組み合わせは不要です。

リモート バックアップの場合、ネットワーク上のデータ量を軽減する場合は、差分/増分との組合せをお勧めします。

重複排除処理はバックアップ サーバ側で行うため、リモート フル バックアップの場合には対象データがすべてバックアップ サーバに送信されますが、この量を軽減できます。

ベース製品（管理）**Q. アクティビティ ログが 2 週間で削除されますが、これを 30 日間保持するように変更できますか？**

はい、可能です。サーバ管理の環境設定で、[データベース エンジン] タブにある [古いアクティビティ ログ廃棄間隔] を 14 日から 30 日に設定を変更してください。変更に伴うサービス再起動は必要ありません。

Q. バックアップ処理の進捗状況は表示されないのですか？

はい、初期設定で非表示にしています。進捗状況を表示するには、ソース総量の推定（バックアップ対象データの容量チェック）を事前に行うため、全体的なバックアップ処理時間が少々長くなります。バックアップは夜間に行われることが多く、進捗状況を表示する必要性が低いことと、処理時間短縮の理由から、ソース総量の推定を外しています。

ただ初期設定の状態でも、2 回目以降のバックアップでは進捗状況の表示が行われます。進捗表示のベースとなる容量は、1 回前のバックアップ容量になります。バックアップ対象データに大幅な増減がある場合には、画面に見えている進捗率と実際の進捗率にはかなりの差が出てきます。

正しい進捗率を表示するには、バックアップ画面のグローバル オプションで、[操作] タブにある [ファイル サイズを推定しない] のチェックを外します。この変更により、バックアップ時に毎回ソース総量の推定を行うため、ファイルの数が多い環境では、少々バックアップ時間が長くなります。

Q. Alert のメール機能は SMTP 認証に対応していますか？

はい、r16 SP1 から対応しています。設定方法は以下の技術情報を参照してください。

[Arcserve Backup のイベントを、Alert 機能を使用し SMTP 認証環境で通知する方法](#)

Client Agent**Q. Active Directory の詳細レベル リストアは有償のオプション製品ですか？**

いいえ、この機能を利用するためのオプション製品は必要ありません。Active Directory の詳細レベル リストアを利用するには、AD のサーバに Client Agent を導入してください。

Q. Active Directory の詳細レベル リストアは、Windows Server 2012/R2 にも対応していますか？

はい、対応しています。この機能は Windows Server 2008 以降の OS で利用できます。

Q. バックアップ サーバをアップグレードすると、Agent のバックアップ情報やジョブは引き継がれますか？

はい、下位互換のサポート範囲内であれば、Arcserve Backup を上書きインストールすることで引き継ぎ可能です。インストール中の選択項目にご注意ください。

Q. リストア時、ファイルのアクセス権を復元できますか？

はい、復元できます。デフォルトの設定で、ファイルの属性やセキュリティ情報がリストアされます。

Q. Linux OS に Client Agent for Linux を導入しましたが、バックアップ サーバから接続できません。

Linux OS 側のファイアウォール設定を確認してください。

ファイアウォールが有効の場合には、TCP と UDP のポート 6051 を開けてください。

Q. バックアップ対象の Windows マシンが 10 台あります。Client Agent の環境設定を一度に設定できますか？

はい、できます。Arcserve Backup マネージャのセントラル エージェント管理機能により、同じ設定を複数のマシンのエージェントに適用できます。この機能は標準搭載の機能です。

Q. AIX で 4LPAR を構成していますが、Arcserve Backup でサポートしていますか？

はい、サポートしています。各 LPAR に Client Agent for UNIX を導入してください。

Agent for Open Files

Q. 合成フル バックアップでテープ装置やクラウドは利用可能ですか？

はい、ステージングと併用することで利用できます。ディスク ベース デバイス(ファイル システム デバイス や データ デデュープリケーション デバイス) 上で合成処理を行ったあと、最終書き込み先としてテープ装置や別のディスク ベース デバイス、クラウド デバイスを選択できます。

Q. 合成フル バックアップとはどういう機能ですか？どんなメリットがありますか？

合成フル バックアップでは、フル バックアップとそれ以後の増分バックアップを合成する事で新しいフル バックアップ イメージを作る機能です。ソース マシンに長時間負荷がかかるフル バックアップの回数を減らし、日々のバックアップは増分での運用が可能です。

自動実行可能な合成ジョブによりフル バックアップと増分バックアップは合成されるので、リストアはまとめて1度に行うことができます。バックアップの負担だけでなく、リストアの負担も軽減します。

Q. 合成フル バックアップ運用中、ソース内で意図的に削除したファイルがある場合でも、合成フルをリストアしたときにそのファイルはリストア対象に含まれてしまいますか？

いいえ、バックアップ時に Point in Time リストア機能を有効にすることで、フル以降に意図的に削除したファイルをリストア対象データから除外することができます。

Point in Time リストアを有効にするには、グローバル オプションの拡張タブを開き、一番下にある項目、[Point-in-Time リストア (PIT リストア) を有効にする] をチェックしてください。

Q. 初回のみフル バックアップを実行し、その後は増分バックアップで運用したいのですが、合成フル バックアップで実現できますか？

はい、実現できます。初回はフル バックアップを行う必要がありますが、それ以降は増分+合成ジョブだけで運用できます。

Q. 合成フル バックアップを実行しています。手動で合成を行いたいのですが、「合成の必要のあるセッションが存在しません」というメッセージが表示され、実行できません。

合成処理を手動実行したい場合は、バックアップ 画面のグローバル オプションにある[拡張] タブで [Point-in-Time リストア オプション]を有効に設定してください。

Agent for Virtual Machines

Q. 『Guest Based Virtual Machines Agent Bundle』と『VM Agent per Host License』の違いは何ですか？

利用できる機能に差異はありません。この2つの製品の違いはライセンスのカウント方法です。

『Guest Based Virtual Machines Agent Bundle』の場合は、バックアップ対象となる仮想ゲストの台数に加えて、仮想ホスト (vSphere の場合はバックアップ プロキシ) の分もライセンスが必要となります。

『VM Agent per Host License』の場合には、仮想ホスト 1 台につき 1 ライセンスとなり、保護可能な仮想ゲストの数に制限はありません。vSphere の場合には、別ノードに導入するバックアップ プロキシのライセンスも同根します。

Q. 仮想ゲストのバックアップにはどんな方法がありますか？

物理マシンのバックアップと同様に、各ゲストにエージェントを導入する方法と、仮想ホストと連携してバックアップを行うエージェントレスの方法があります。エージェントレス方式は、vSphere 環境では VADP (vStorage API: VDDK を利用)、Hyper-V 環境では VSS を使用してゲストのスナップ ショットを取得し、処理します。

Q. vSphere 環境で Windows 2000 Server や Windows Server 2003 をバックアップできますか？

はい、バックアップできます。バックアップ方法はエージェントレス方式をご利用ください。

※ Windows 2000 Server や Windows Server 2003 の SP レベルは、vSphere でのサポート条件に依存します。

Q. ゲスト OS で SQL DB や Exchange Server などのアプリケーションが稼働している場合の保護方法は？

VSS Writer 対応のアプリケーション (Microsoft SQL Server や Exchange Server など) の場合、Agent for Virtual Machines Bundle に同梱の Agent for Open Files for VM の機能を使い、VSS を経由してバックアップできます。差分/増分や特定のデータのみ保護する場合、また整合性チェックなどアプリケーション側の機能と連動させる場合は、アプリケーション専用のエージェント製品にて保護できます。

Q. VMware vSphere でバックアップのトランスポート モードを指定できますか？

はい、[動的]、[SAN]、[HOTADD]、[NBDSSL]、[NBD] から選択できます。HOTADD モードでは仮想ゲストをバックアップ プロキシとして利用できます。

Q. Linux ベースの vCenter をサポートしていますか？

はい、サポートしています。vCSA (VMware vCenter Server Appliance) による Linux ベースの vCenter をご利用いただけます。

Q. vSphere 環境で複数の仮想マシンをエージェントレス方式で同時にバックアップできますか？

はい、できます。バックアップ先となるデバイス (テープ装置、ファイル システム デバイス、データ デデュープリケーション デバイス) を複数ご用意ください。

Q. vSphere 環境で仮想ゲストへのバックアップ モジュールの導入は必要ですか？

エージェントレス方式でバックアップする場合、モジュール導入は不要です。

※ バックアップ モジュールの導入は不要ですが、バックアップ対象のゲスト OS には Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。ライセンス数については、[ライセンス ガイド](#)をご覧ください。

Q. VMware View のリンク クローン環境をサポートしますか？

はい、サポートします。事前に下記の技術情報をご覧ください。

[Arcserve Backup を使用した VMware View の保護に関する制限事項](#)

Q. vSphere や Hyper-V の仮想 OS でクラスタ構成 (MSCS や WSFC) をサポートしますか？

はい、サポートします。

サポート対象となる OS は、日本マイクロソフト株式会社が仮想システムでサポートしている OS であり、かつ Arcserve Backup が Client Agent でサポートしている OS になります。バックアップ方法は物理サーバ環境と同じく、Agent for Virtual Machines に含まれる Client Agent 経由でのバックアップとなります。

Q. vSphere vMotion 環境や Hyper-V ライブ マイグレーション環境をサポートしますか？

はい、どちらもサポートしています。

VMware vSphere では、vSphere vMotion、vSphere DRS、vSphere HA、vSphere FT 環境をサポートしています。Hyper-V 環境では、ライブ マイグレーション および クイック マイグレーション環境をサポートしています。

Q. Hyper-V レプリカをサポートしますか？

はい、サポートします。ゲストはプライマリ仮想マシン (複製元) からバックアップを実行してください。ホストはスタンダアロン構成のみバックアップをサポートします。

Q. Citrix Xen Server 上の仮想マシンのバックアップはどのように行いますか？

物理マシンのバックアップと同じく、Client Agent 経由のバックアップ方法を利用します。仮想マシンのバックアップには、Agent for Virtual Machines に含まれる Client Agent の機能を利用してください。

Q. Nutanix のハイパーコンバージドインフラを使って vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

Agent for Virtual Machines からみると、Nutanix のハイパーコンバージドインフラは透過的な環境であるため、エージェントレス方式も、また各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式もサポートします。

Q. Nutanix のハイパーコンバージドインフラを使って Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。

Agent for Microsoft SQL

Q. SQL 2012 以降の高可用性 (AlwaysON) をサポートしていますか？

はい、対応しています。

Q. データベース ミラーリング構成をバックアップできますか？

はい、Arcserve Backup はデータベース ミラーリング構成の、プリンシパル側のデータベースをバックアップします。

Agent for Microsoft Exchange

Q. Agent for Microsoft Exchange のドキュメント レベルのバックアップとリストアの単位は？

バックアップはフォルダ単位、リストアはメール単位です。フォルダは Outlook などのメール クライアントが作成するフォルダだけでなく、ユーザが作成したフォルダでも対応できます。

さらに、r17 から搭載した Exchange Granular Restore ユーティリティでは、データベース レベルのバックアップからメール単位や各タスクなど、詳細レベルのリストアができます。

Q. Agent for Microsoft Exchange ドキュメントレベル リストアでバックアップ データが表示されません。

Exchange Server やメール クライアントの設定で、ダウンロード時などに Exchange Server 側にメールが残らない設定となっていないか確認してください。Exchange Server にメールが残っていない場合、表示するデータが無いため、バックアップ画面にも出てきません。

Q. Agent for Microsoft Exchange で、Document Level を展開すると、フォルダ名が英語で表示されます。日本語表示にするにはどうすればいいですか？

Outlook などのメール クライアントで、英語表示となるアカウントにログオンすることで初期化が行われ、日本語表示になります。

Q. Exchange 2010/Exchange 2013/ Exchange 2016 はソースのツリーではどこに表示されますか？

Exchange Server 2010 以降のバージョンはバックアップのソース タブの一番下にある [Exchange の組織] に Active Directory の情報を登録すると表示されます。

Q. Exchange の DAG はサポートしますか？

はい、サポートします。DAG の構成ノード数は Exchange Server がサポートしている最大構成ノード数までサポートします。

Disaster Recovery Option

Q. Disaster Recovery を行うために事前に準備するものは何ですか？

Disaster Recovery Option には幾つかの復旧方式がありますが、Windows PE 方式では、ブート用の起動メディア、フル バックアップ メディア、フル バックアップ完了時に自動作成される復旧情報が必要となります。差分や増分バックアップを併せて戻す場合には、差分や増分のバックアップ メディアも必要となります。復旧情報に関しては、フルバックアップ完了時のものではなく、差分や増分取得後に更新される復旧情報が必要となります。そのほか、Disaster Recovery 実行中に使用する HDD、テープ装置、NIC ドライバが必要になる場合があります。ドライバはあらかじめブート用の起動メディアに格納しておくことも可能です。

Q. 過去のバージョンで使用していた Bootable CD 方式は使用できますか？

はい、Windows Server 2008 R2 までの OS で使用可能です。

Q. Windows Server 2008 および Windows Server 2012 のクラスタ (WSFC/MSFC) 環境では、Disaster Recovery による復旧をサポートしますか？

はい、サポートします。[リモート ノードの WSFC 環境へ Client Agent の導入と復旧](#)をご参照ください。

※ Disaster Recovery Option の復旧方法は Windows PE 方式を利用してください。

Q. SAN ブート環境を Disaster Recovery Option で復旧できますか？

はい、できます。SAN ブート環境を FC のマルチパスで構築されている場合は、復旧前に FC ケーブルを抜いてシングルパスにしてください。

Enterprise Module

Q. Enterprise Module で対応する raw バックアップを実施する場合、バックアップ サイズはどうなりますか？

raw の場合は未使用領域の判別ができないため、該当ボリューム全体のサイズのバックアップ データが作成されます。未使用領域が多い場合は、デデュープリケーション機能を利用することにより容量を削減できます。バックアップ先はハードディスクになりますが、未使用領域が重複排除の対象となり、バックアップ データのサイズはボリューム内の使用済み領域と同程度になります。

Q. バックアップ対象のファイル数が多くなり、ジョブの実行に 24 時間以上かかっています。Arcserve Backup の Image Option 機能を使うと、バックアップ速度はどのくらい速くなりますか？

バックアップ速度はファイル数やデータの種類にも依存しますが、弊社内のテスト環境では、8 倍のスピードアップを実現しています。

[バックアップスピード比較:Image Option と標準バックアップ](#)

Q. Image Option は Windows Server 2012 や 2012 R2 をサポートしますか？

はい、サポートします。対応 OS は動作要件をご覧ください。

Q. Image Option は GPT ディスクをサポートしますか？

はい、サポートします。

Central Management Option

Q. Central Management Option を導入した環境の場合、Arcserve Backup が制御できる最大デバイス数は各サーバ単位でしょうか、それとも Arcserve Backup ドメイン単位でしょうか?

Central Management Option を導入した環境でも、バックアップ サーバとなるプライマリとメンバーの各サーバにて、最大 255 個のデバイスを制御できます。
